

明治初期の教育者

守伊豫子

よくできた教養識豊かな姫であった。 邸に生まれた。そして、 伊豫子は文学に通じ、 留守伊豫子は一八〇四年(文化元年)十月、仙台藩領の栗原郡岩 (宮城県栗原市)城主中村義景の娘として仙台城下の中の瀬の 特に、和歌もよくし、また、裁縫手芸等も 十四歳のとき、水沢城主留守宗衡に嫁いだ。

に再開された。これによって八歳以上のすべての者に教育の扉が開 なっていたが、それが胆沢県を巡視している武田権知事の目に留ま 江戸時代の水沢には領内の子供たちの勉強するところとして学問 (立生館)があった。その学校が明治維新の際閉鎖されたままに 立生館を郷学校と改めることになり、一八七〇年(明治三年) 希望者はこの学校で学ぶことができるようになった。

> 二年(明治十五年)には、長年にわたり女子教育の振興に尽力し、 ちを教えた。その時、伊豫子はすでに七十歳であった。このように うだいした。 が新しく建てられた。その際伊豫子は敷地と建築費を寄付した。そ その願いが認められ村の学校の教師になる。伊豫子の熱心な指導の 治八年)に水沢県や右大臣岩倉具視から表彰を受け、一八七七年 高齢者の伊豫子が教育に力を入れて頑張ったことで一八七五年(明 して新校舎の完成後も引き続き教師として、親切、丁寧に子どもた 一月、表小路枡形に公立塩釜小学校(水沢小学校となる前の名前) う子どもが二○○人以上にもなったので、一八七三年(明治六年) が変わり、各地区に小学校がつくられた。水沢では勉強したいとい おかげで村の学校の名声が高まり、女子の入学者もしだいに増えた。 大きな成果を挙げたとして、時の美子皇后様より御歌(和歌)をちょ (明治十年)にはさらに岩手県より表彰を受けた。そして、一ハハ 一八七二年(明治五年)学制の制定によって教育に関する仕組み

みがかずば 玉も鏡も何かせん

学びの道も かくこそありけり

和歌を添えて皇后様に送った。 伊豫子はこの身に余る光栄に感激し、、自家製の真綿に次のような

そのためには女教師が必要であるという願いを持っていた。そして、

年齢も六十七歳であった。

しかし、

女子にも学問を受けさせたい

郷の学校が再開されたとき、伊豫子は出家して貞教院と名のり

うれしさの 心をいかにのばえまし

君千代ませと 祈るほかなし

時に塩釜小学校にはほかに吉田たよという教員がいて女教師は二

人だった。

が燃え盛っていたからであろう。して活躍したということは驚くばかりで、これは教育に対する情熱して活躍したということは驚くばかりで、これは教育に対する情熱人生五十年といわれた時代、七十歳を超えてからも現職の教師と

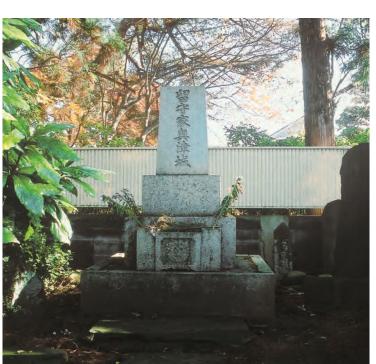
十三歳の高齢でその生涯を終えている。サニ歳の高齢でその生涯を終えている。サニューのでいて、多くの人々からの慕われ信頼されていた伊豫子はハかりしていて、多くの人々からの慕われ信頼されていた伊豫子よったが、いずれも母伊豫子よ

*参考文献

『水沢市史 四 近代(Ⅰ)』

『写真集水沢』

『留守伊豫子伝記』



るすけはか 留守家の墓(水沢区東町)

水沢市史刊行会